

きこえない人ときこえる人の双方向コミュニケーションを可能にする AI 手話翻訳サービスの実証実験を札幌市で開始

～産官学連携で言葉のバリアフリー化を目指す～

BIPROGY は、札幌市、Sapporo AI Lab^{※1}、北海道大学、札幌聴覚障害者協会と、「ろう者^{※2}ときこえる人の言葉のバリアフリー化」実現を目指し、AI 手話翻訳サービスの実証実験を札幌市で開始します。

AI 手話翻訳サービスは、ろう者ときこえる人が直接コミュニケーションできる AI 技術(ディープラーニング)を活用したサービスです。本実証実験では、自治体や店舗の窓口業務においてろう者の対応サポートでの AI 手話翻訳サービスの有効性を確認し、ろう者の社会進出支援につなげます。

※1：札幌市が事務局を務める産学官連携組織「札幌市 IoT イノベーション推進コンソーシアム」の専門部会。AI 関連技術を活用したビジネス創出や人材の確保・育成等を目的とする。

※2：耳がきこえなく、手話を使える人のこと

【背景】

ろう者の社会進出には、ろう者ときこえる人との間の円滑なコミュニケーションが不可欠です。しかし、手話通訳士の人手不足やきこえる人の手話の普及率の低さなど、ろう者ときこえる人との双方向のコミュニケーションの手段の拡充が課題となっています。

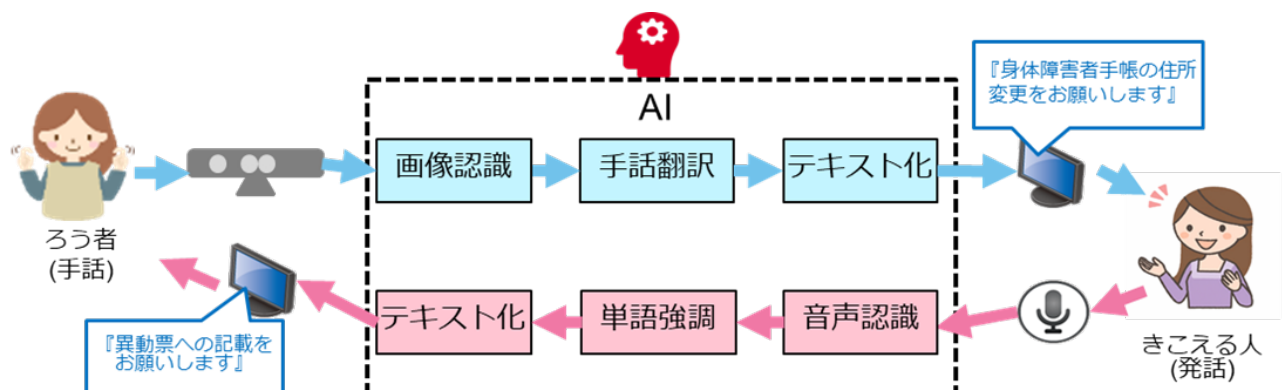
BIPROGY はろう者と手話に馴染みのないきこえる人とのスムーズなコミュニケーションを実現するために「AI 手話翻訳サービス」の開発を Sapporo AI Lab、北海道大学などと進めてきました。

【AI 手話翻訳サービスの概要】

「AI 手話翻訳サービス」は、ろう者の手話を AI でテキスト(日本語)へ翻訳し、きこえる人の話し言葉を AI でテキストに翻訳しディスプレイに表現することで双方向のコミュニケーションを可能にするサービスです。

今回の実証実験では採用していませんが、きこえる人の話し言葉を手話動画で表示することもできます。

【実証実験の概要】



今回の実証実験では、札幌市区役所の保健福祉業務を対象とし、地方公共団体の窓口業務における「AI 手話翻訳サービス」の有効性について明らかにすることを目的としています。

実証期間	2023年2月7日(火)～3月9日(木)のうち4日間
実証場所	札幌市 北区役所、東区役所
検証項目	<ul style="list-style-type: none"> ・手話の翻訳精度、およびきこえる人の発話の手話への翻訳精度 ・筆談対応とのコミュニケーション差異の確認 ・窓口担当者、およびろう者の満足度の確認
主な技術検証や各社の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・BIPROGY：A I 手話翻訳サービスの開発全般 ・札幌市：保健福祉窓口の業務シナリオ検討支援、実証実験協力 ・Sapporo AI Lab：産学官連携のコーディネート ・北海道大学：A I エンジンの開発支援 ・札幌聴覚障害者協会、札幌手話通訳問題研究会：手話言語支援、手話動画撮影支援、実証実験協力

【今後の取り組み】

BIPROGY は、本実証実験を通じて、サービスの技術的な課題を解消し、AI 手話翻訳サービスの窓口業務での実用化を目指していきます。

また、AI 手話翻訳サービスは総務省の「情報通信利用促進支援事業費補助金（デジタル・ディバイド解消に向けた技術等研究開発）」に採択され、助成を受けて研究開発を進めています。将来的には、多言語対応した国際的な手話への対応や一般的なカメラやスマートフォンへの対応などを通じて言葉のバリアフリー社会の実現に貢献していきます。

以上

■ 関連リンク：

日本ユニシス、北海道大学、札幌 AI ラボによる産学官連携 AI 手話プロジェクト（2018 年）：
https://www.youtube.com/watch?v=KybVQO-I_fw

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

https://www.biprogy.com/newsrelease_contact/

※お問い合わせは BIPROGY までお願いいたします。市や区役所へのご連絡はお控えください。